

普及センターだより 250号

テーマは ” 省力化 ”

## 抑制トマトの現地検討会

9月26日、120名の参加で、抑制トマトの現地検討会が開催されました。あいにくの曇り空の中でしたが、参加者は横芝町、芝山町の現地3か所の見学と講演会で、中身の濃い内容になりました。

省力化の手段は . . .

- . . . 直播栽培
- . . . マルハナバチ
- . . . 幼苗定植

今年のテーマは栽培管理技術の省力化。生産者の規模拡大と高齢化に対応した、労働時間を短縮できる技術として、直播栽培、幼苗定植、マルハナバチの3課題、特に直播栽培について重点的に検討しました。

試験栽培をされた3人の方のほ場では、直播栽培では、慣行の移植栽培より早く生育し、草勢の良い青々としたトマトが目にとまりました。マルハナバチは、8月下旬からの導入ですが、着果に問題はなく、トマトの収穫と稲刈りが労力競合をする9月上旬には力強い味方となっています。

現地では、トマトを前に生産者や普及員に質問したり、仲間内で検討している姿が見られました。

### 直播のポイント

検討会会場に戻ってから、試験場のS上席研究員から、『発芽を揃える』、『初期生育が旺盛となるので草勢調節を行う』、『除草対策』など、直播栽培のポイントが示されました。また、試験栽培をおこなったOさんからは、「省力化になるが、栽培手順が変わるので忙しい時期が変わる」、Hさんからは「夫婦2人でやっているので省力化になり、来年も取り組んでみたい」、Wさんからは「追肥の方法の検討が必要」という感想がありました。

「地域の農家を見て勉強することが、栽培技術を高める早道である」とのS県野菜連会長のあいさつのとおり、現場をみた参加者はトマト栽培の何かを得たことでしょう。

## あちらこちらで「環境にやさしい農業」

今、環境に負荷を与えない農業や生産者に安全な農業に関心が高まっています。そこで山武郡市内で実践されている事例を紹介します。

### 抑制トマト栽培では・・・

果実・食葉害虫であるオオタバコガ・ハスモンヨトウの被害を軽減しようと黄色蛍光灯の利用が試みられています。主に山武町や芝山町の農家で導入され農薬の散布回数が減るなど実効をあげています。

### 土壌消毒では・・・

臭化メチル剤が使えなくなることから熱水の土壌散水や被覆物、太陽熱を利用した土壌消毒法が試みられています。高温処理により、土壌病害を回避するねらいで主に芝山町や山武町で実証されています。

### イチゴ栽培では・・・

無農薬栽培を目指してハダニ・スリップス等の天敵利用が始められています。主に成東町・東金市で実践され成果を上げています。



性フェロモン剤を設置したネギほ場でシロイチモジヨトウの食害を調査中

### ネギ栽培では・・・

害虫であるシロイチモジヨトウに対し性フェロモンの利用が増加しています。雌の性フェロモンを、ほ場内に沢山置くと、雄は雌を見つけられず、交尾が出来なくなります。その結果、次世代の幼虫発生を減らし、被害を回避しようとするものです。主に九十九里町や成東町で実施されています。

この他にも土壌中のセンチュウ被害を軽減する対抗植物の利用技術等があります。

## ゆで落花生 ・ 収穫に器用な助っ人

### 《 らっこっき 》

3年前に、ゆで落花生用の品種として登場した「郷の香」。トンネル・マルチ栽培では7月の中旬から収穫できる極早生品種。粒は大きく、色白で、食味がよいのが特徴です。

一部の農家で栽培され始めていますが、「もじくのに手間どって・・・ どうにかならないかなー」との声が多くありました。そこで、普及センターでは、安価で手軽に使える道具を開発しましたので紹介します。



### 名前は「らっこっき」(写真)

センバコキの原理を応用したもので、何回かの試作器を農家に試していただきながら改良し、出来上がりました。

#### 特性1

子房柄(なりづる)が莢のところできれいに取れます。

#### 特性2

能率は、手もぎと比べ、2～3倍。

「らっこっき」を使っている芝山町のHさんは「子房柄がきれいに取れるのがいい。使いやすくて、満足できる能率だ。年もとっているのに、高い機械は買うつもりはない。」と話しています。「らっこっき」は2個のコンテナの上に備え付け、座った姿勢で作業ができます。

刃の部分が竹でできており、ちょっと器用な人なら手作りできるので、作ってみたい方は普及センター農畜産科までご相談ください。

## カイガラムシ類の防除

果樹類では、芽の動きの止まった休眠期が、防除のむずかしいカイガラムシ類やその他病害虫の防除適期です。

### カイガラムシ類

5～6月に葉の裏側や枝・幹に扁平な形をした虫が寄生し、樹液を吸汁します。この虫は孵化後2～3週間でろう物質に体を覆われますので、薬剤が効きにくくなります。被害は樹勢の衰弱のほか、激しいすす病を発生させて葉や果実が黒く汚れ、美観をそこないます。

#### 機械油乳剤 97

効き方は主に油の被膜により気門をふさぐ呼吸阻止の作用です。ですから、カイガラムシ、ハダニ類をはじめとする越冬害虫の防除剤として広く用いられ、抵抗性のついたハダニ類にも効果があります。

しかし、高温時の散布は薬害を生じますので、朝夕の涼しい時に行ってください。なお、石灰硫黄合剤との混用はできません。石灰硫黄合剤と併せて使用する場合には1ヶ月以上間隔をあけてから散布してください。

#### 石灰硫黄合剤

病気、害虫を問わず効果があります。果樹では、冬期か芽の動き出す前に使用します。なお、この薬剤は強アルカリ性のため、噴霧器その他の器具が腐食しやすくなりますので、作業後は水で十分洗浄してください。

どちらの薬剤も、芽が動き出してから使用すると薬害が生じますので、十分に注意して下さい。

使 用 方 法			
農 薬 名	作 物 名	稀 釈 倍 数	病 害 虫 名
機械油乳剤 97	落葉果樹	35～50倍	カイガラムシ 及び ハダニ類
	リンゴ	30～45倍	
	常緑樹	100倍	
石灰硫黄合剤	もも	7倍	縮葉病 芽枯病 黒星病 赤星病など
	くり	20～40倍	
	かき	8倍	
	ビャクシ類	50倍	

## 東金市北之幸谷直売所

### 《つくしんぼ》

東金市には女性農業者の運営する直売所が2つあります。その1つが、昨年北之幸谷に開店した『つくしんぼ』です。3つの生活改善グループが手を取り合って、平成4年から武射田の県道沿いで営業をしていましたが、売店の建物が交通事故でこわれ、閉鎖。場所選びに苦慮した末に、北之幸谷の農産物加工所の前で営業を始めました。

まだ前の直売所での売り上げには達しないものの、集落住民とのコミュニケーションの場として、重要な位置になりつつあります。

片貝県道から北之幸谷集落の交差点を二又方面に進むと、すぐ看板があります。野菜をはじめ、加工品も季節にあわせ、各種の品々が並んでいます。これから味噌の仕込みも始まり、加工所も毎日にぎやかになります。

北之幸谷直売所の営業日は毎週火曜日と土曜日の午前中です。お客さんの声を直接聞いて直売所の運営に生かすために、メンバーが交代で販売にあたっています



第250号(2000年11月1日発行)より  
山武農業改良普及センター